

を多田野村にし、自然に下流に流すことでした。

久敬は、安積の村々の協力を受け、「ちようちん測量」で土地の高低を測りました。この測量はむかしからの方法で、江戸時代のはじめ、箱根用水をつくったときに使われとても正確なものでした。久敬は、自分の全財産を投げ出して、用水路づくりの仕事にうちこみました。

ちようどそのころ、県の役人中条政恒なかじようまさつねは、開成山の開拓かいたくをすすめていました。久敬は、中条政恒に用水路づくりの協力を、なんどもなんどもお願いしましたが、聞き入れられませんでした。

また、明治政府は、久敬の計画した齊木峠案の水路計画ではなく、沼上峠案の工事を実行に移していききました。それは、失業した武士ぶしを救うために、熱海あたまや日和田わだなどの上流の地域ちいきの開田をすすめていたからです。久敬は、今まで自分の全財産を投げ出して、この仕事に情熱をかたむけてきたので、沼上峠案を止めて齊木峠にするようさいごのお願いとして、東京の内務卿伊藤博文いとうほんぶんに直訴じきそする決心を